

富士フィルムは、レスポンシブル・ケア活動の一環として、当社の活動をさまざまな形でお取引先やお客様にお伝えするとともに、このコミュニケーション活動を通して、皆様と一緒に環境問題について考え、よりよい環境づくりを進めています。

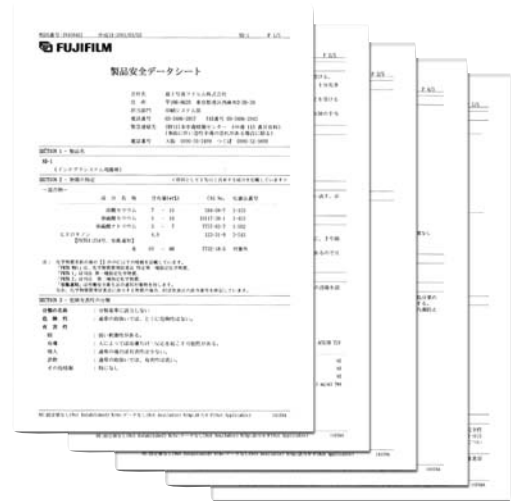
MSDS(Material Safety Data Sheet : 化学物質等安全データシート)の発行

MSDSとは、製品による事故を防止し、化学物質の取扱いにおける安全性確保(人の健康、生態系に対して)のための情報提供手段です。当社では、(社)日本化学工業協会の指針に従い、該当する製品のMSDSを整備してきました。また、2000年の改正労働安全衛生法の施行、2001年の化学物質管理促進法(PRTR法)、改正毒劇法施行令の施行により、一定の要件を満たす化学物質及び製品のMSDSの提供が義務化されました。これにともない、2001年3月に当社のすべてのMSDS(約1,000件)の書式をより分かりやすく、かつ法令に準拠した内容に改訂しました。さらに、MSDSの発行、改訂を迅速かつ正確に行うために、2000年にMSDS作成データベースシステムを構築し、関連事業場や海外関連会社に導入しています。

なお、MSDSは当社ホームページからもご覧いただけます。

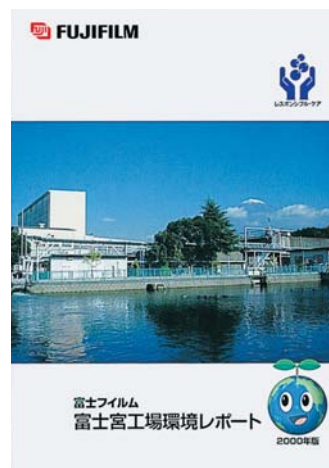
(<http://www.fujifilm.co.jp/msds>)

また、当社はAIS(Article Information Sheet)を発行し、フィルム、印画紙等のアーティクル商品すなわちMSDS発行の対象外となっている有形商品の環境・安全に関する情報も提供しています。



足柄工場・富士宮工場サイトレポート発行

当社のフィルム製造の主要工場である足柄工場、富士宮工場は、それぞれ独自の環境レポートを作成しています。両工場とも1996年にISO14001を取得しており、レポートでは、環境施策の重点課題とその実績、環境負荷の推移などについてデータや図表を用いて分かりやすく報告しています。また、レポートは、行政・地元自治会・協力会社等に配布され、環境保全活動に関する地域社会とのコミュニケーション推進に活用されるとともに、工場内におけるゼロ・エミッション活動の啓発・教育活動のためのツールとしても役立てられています。



「写ルンです」循環生産工場、見学コース

1998年にオープンした足柄工場の「写ルンです」循環生産工場は、リコース・リサイクルと生産を同じ建物内で行う、世界初の循環生産自動化工場です。この工場では、一般の方の見学コースを設けており、回収された「写ルンです」が機種ごとに仕分けされ、分解、検査されていく工程を見学していただくことができます。見学者の方からは、「すばらしいリサイクルシステム」、「リサイクルの工程を知り、環境配慮・保全に関して再認識した」等の声が寄せられており、小学生の環境学習の場あるいは中学生の修学旅行のコースの一つとなるなど、国内外から月平均1,000名の方が見学に訪れています。



慶応大学で「環境問題の企業対応」講演

(財)経済広報センターでは、企業活動の実態と企業の社会的・国際的な役割を正しく理解してもらうことを目的に、各大学で寄付講座を開設しています。2000年11月には、慶応大学商学部で、当社環境・製品安全推進部の担当者が講師として参加。「環境問題への企業対応」をテーマに、富士フィルムの環境保全の概要と「写ルンです」循環生産などの具体的な取組み、環境問題に関する世界的な流れなどを紹介しました。

南足柄市で101本の足柄桜植樹

南足柄市と当社は、南足柄市の名誉市民で2000年に101歳で亡くなった春木榮当社相談役の功績を称え、足柄工場に隣接する狩川堤に101本の足柄桜「春めき」を植樹しました。故春木相談役は、1934年の当社設立と同時に足柄工場長に就任、以後、地域の自然環境と水の保全に力を注ぎました。今回の植樹は、一度に植樹された本数としては国内最大で、堤は「春木径(はるきみち)」と命名されました。これを当社の環境保全への取組みの一里塚にしていきたいと思いをします。



「春めき」を植樹する鈴木南足柄市長(右)と当社大石代表取締役